



Title	赴任一年目をふりかえって
Author(s)	渡部, 直也
Citation	日本語講座年報. 2025, 2023-2024, p. 16-17
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102669
rights	
Note	

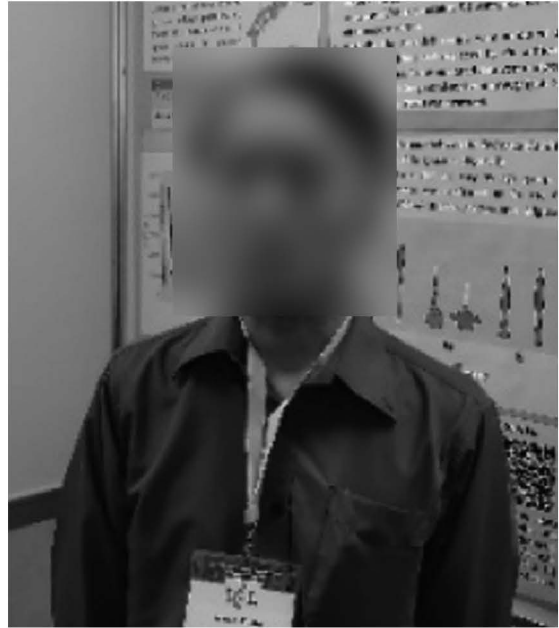
The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2024年10月に着任し、あっという間に半年が経とうとしています。不慣れなことばかりでご迷惑をおかけしておりますが、講座の先生方や事務職員の皆様をはじめ多くの方に支えていただき、まずは学期を無事終えることができました。この場を借りて感謝申し上げます。

私は元々関東の八王子出身で、留学時代を除いてずっとその辺りで暮らしていました。旅行が好きで大阪を含め全国各地に行ったことはありましたが、ほかの地域で生活するのは初めてのことでした。とはいえ、不便はほとんど感じていません。千里中央や箕面萱野周辺にはたくさんお店があり、家賃も手頃でむしろ首都圏よりも住みやすいかと思うぐらいです。大学の前に電車が延伸し、新大阪や梅田からも一本で行けるようになっていきますね(私は以前の状況を知らないのですが)。八王子の辺りは新幹線の駅や空港からだいぶ離れていて、遠出する際には本当に苦労していました。



ところで八王子には高尾山というちょっとした観光地があるのですが、そこは「明治の森高尾」という国定公園になっています。驚いたことに、箕面の山も「明治の森」を冠する国定公園になっているようで、不思議な縁を感じます。明治100年を記念して制定されたもののようですが、全国で箕面と高尾だけのようですね。先日初めて滝のほうまで行ってきたのですが、とても良い所でした。周辺の街並みも少し似ているところがあって、千里ニュータウンの団地は実家の団地とそっくりです。ある時バスから見た「タヌキ注意」の看板は、「平成狸合戦ぽんぽこ」の舞台となった多摩ニュータウン(八王子の近くです)を思い起こしました。そんな感じで、箕面周辺の環境にはすぐに馴染めたように思います。

一方でやはり感じるのはことばの違いです。私は音韻論・音声学を専門にしているのでむしろ楽しんでいて、日常生活が語学学習＋方言研究という感じです。「箕面」という地名ひとつ取ってみても、こちらでは最後に音が下がりますが、関東のほうでは(もし言うとしたら)音が下がらないアクセント(平板型)になります。ちなみに同様のことは、「地下鉄」や「お会計」、「ミスド」や「スタバ」などにも当てはまりますね。全体的傾向についてはもちろん知っていたのですが、特に若者言葉などについて実際にどう発音されているのかを生で聞く機会を得られたのは貴重な体験です。まだちゃんとした研究という感じにはなっていませんが、「アプリ」や「PiTaPa」はどうして共通語と同じ言い方なんだろう?などと考えているところです。

授業でもこういったアクセントの違いは紹介するのですが、結構多くの学生に関心を持ってもらって

います。東京のある大学で音韻論の授業をやっていた時は、受講者の多くが首都圏出身で共通語しか知らず、自分の発音についてあまり意識していないという感じでした。一方大阪大学では、多くが自分の方言と共通語の言わばバイリンガルで、少なからず発音に対する意識が働いているように思います。また面白いことに、「関西弁」話者の中でも発音に差があるようで、先日は「豊中」の読み方で違いが見られました。また中国地方など、西日本だけど「関西弁」ではない地域出身の学生も結構いて、方言分布の話に実感を持って納得してくれているようです。多少なりとも自分の専門分野が役立ってくれて、とてもやりがいを感じています。

授業関係でもう1つ言うとしたら、様々な言語を専攻している受講者が集まるのも、箕面キャンパスの面白さですね。日本語専攻だけでも何かしらの専攻語(留学生なら母語)があります。言語学概論でのコメント欄に「〇〇語ではこうなっている」と書いてくれる学生も多く、自分も勉強させてもらっています。私は元々スラヴ諸語をテーマに博論を書いており、世界の言語の多様性およびそこから見えてくる普遍性に関心を持ってきました。こうした貴重かつ楽しい環境で、教育・研究にいつそう励んでゆきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。